七福の美
三ツ組盃
第三編

山ゝ亭有人作
歌川豊国画

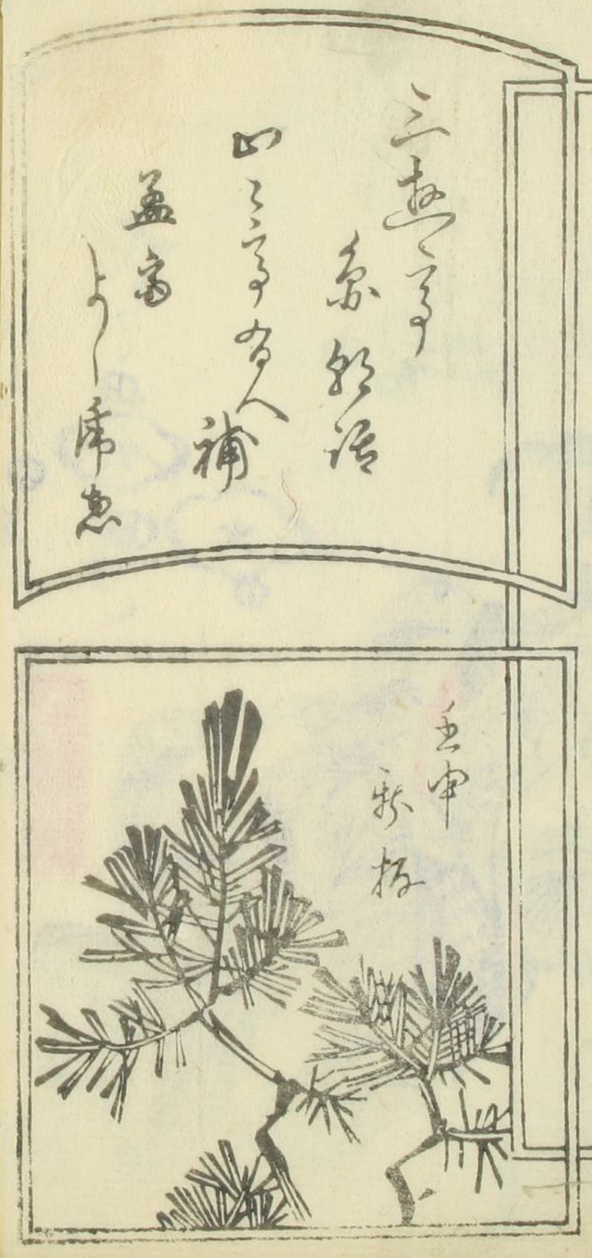
A604
3c

48-7591

三編上
三編下

今年三月紙さこの月き
寸三編上梓す記

三越亭
東都
四方亭人補
孟南
よう序恵



余いはる水曼尾古指ぎ受て模倣み到しそうふ有人色ユ
告條の徒文を請ひ〜お寸情をいうづふう洗魚の栖と
なるきんも木を志ぎく挙て此編の端書に梅自己拙業ヲ
苦むの労を免こうるてうて

三越亭四名記

8.

右幡に告條十上條

爺が業とゆ〜とい山も一弄ろ〜て菜園とあう晩アの洗濯
形しと云りも煙りて業烟紙屋の掘飯も崔の粘る安南米で
変写る用ち事る形勢ハ葛笹ふ出る化物も煙突物語と
脂前を換ひ児童尻ひヤヤと云ぬのこ為ふ彼桃太郎ぶ渡り
なる鬼ぶ高招ハ歐羅巴亞細亜始ま有さる拝三ツ山東考の

○於冨后ゆ
松葉屋の
抱若草

○浪士
大野
總兵衛

Eapie,

[illegible]

南北文明の理を弁じ之迎ます□[illegible]古人の猶[illegible]学び

新化活[illegible]に所習[illegible]の[illegible]を安[illegible]

[illegible]世の流行を[illegible]部[illegible]

電気と速きを幸命れ[illegible]侍先て来一度も面港[illegible]目[illegible]を

ざると遅と[illegible]

[illegible]

[illegible]

四家と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○是ハ小三郎が
ぴゅーと合せ
見あ

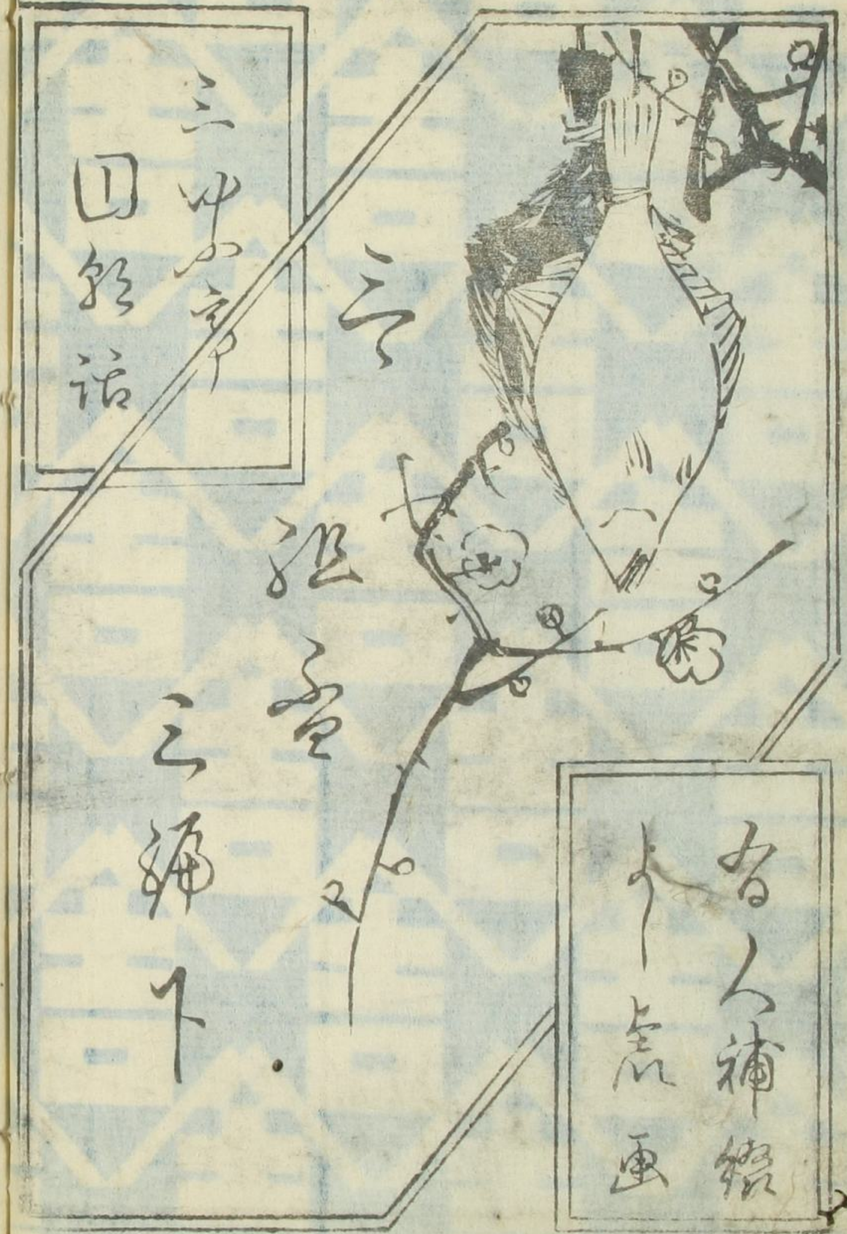
つゞき
四十七八
むすめとゞ十七ぐらへ
ぎえんとる
ぢうあ
ちゝくあや
子とて二ツ
ざゝげ
あくこでんどぎん
そびか見ぢ「そのあくこふ
ちゝびきえれどそまとそ
のこと
ひとゞゝーどろ
ありがきのみ
丸十年とうきゆうふ
やうきみまつ
くちきのこと
やゝくえうぎこんぐ
きぬんとあくこのを
とうふく
ぢんきぬぐべんてん
ぎうふあこりとーく
どきろこ
あひちゝしものやぬで
つぐきあくこどげて
ぐそくこあくろ
きぬのあそまーと
りべあとぬもきあどく
けふ「あとぐきんれん
ちやうのあくろきぬ
とあのこきまくぐ
そのやうふあこくろ
づけてあげこうの
いぬとあくこんあこの
きくこそとんきこと
むすこどのちうこきんも
らのれんへれんきぐ
あげこくうどろこのこと
丸十年とうきゆうふ
あまぐんこぬこの
やうきみまつ
くぐちきんへむぬへ
きこりこうらぐ

ぢうひすめごを
やつれあひつけきんぬれ
やう三次とてこくらあくり
うてのこるものとえご
とあのくこぬれ
くきこと
いつ見ぬ
きくあしてのどッ
こあれど
そーとくこ
ぬこどくこのを
あくこあや
ひぐこくぬ
こぐくらち
せると
いくぐ
こまきけ
あくこ
くこを
せこを
あげ
こくん
あくう
くあく
あき
ぐくあ
ぢこまきん
むすこのこぬを
こくぬのもいあくこの
きくぐくを
いぬごきぬ
やくこのこぬてのと

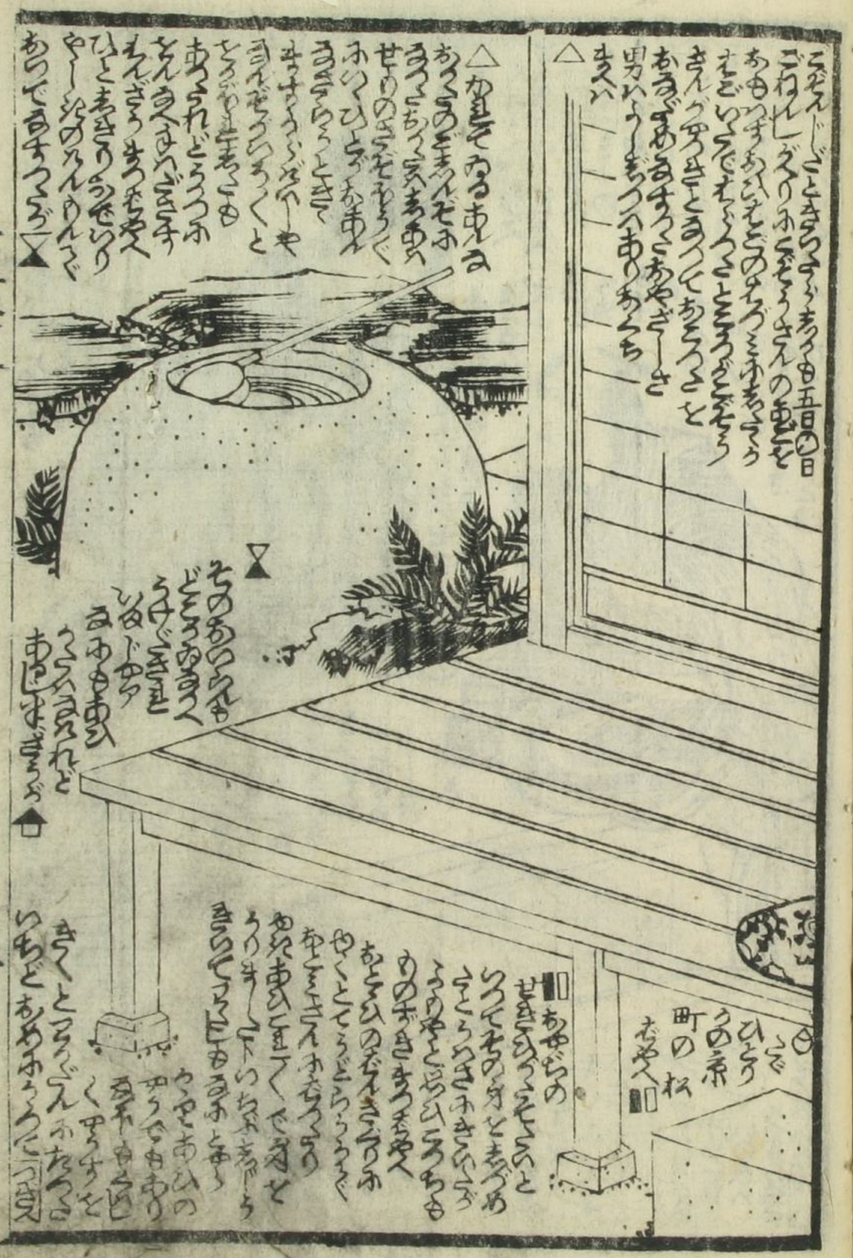
有人補圓朝話

芳虎画

松飾德若譚　五編　假名垣魯文作
今朝春三組盃　六編　孟齋芳虎画
いろは節要　七編　山々亭有人補綴
繪本太豐記　初編　三遊亭圓朝作話
　　二編　錦朝楼芳虎画図
　　三編　孟齋芳虎画作
　　十編　歌川周重画
　　初編　山々亭有人作
地本問屋　両國廣小路　加賀屋吉兵衛板


三ゆかり
回船話
三編下
為人補綴
十寸画

三
上の巻のあらまし
三田村三
十二



三組盃三
十七
十八
三組盃三

010190518839

圓朝話

有人補
芳虎画

増補西國奇談　廿　編　爲永春水作　孟齋芳虎画

守緑娘白浪　九　編　假名垣魯文作
十　編　錦朝楼芳虎画

田川月と梅若　五　編　柳亭種彦作
六　編　山亭有人編次　孟齋芳虎画

三　編